柘植地域まちづくり協議会　人権・同和部会　　２０２０年　４月１日号

『さあ、みんなで、考えよう』

「まちづくり」は「ひとづくり」！

～「あったかい柘植」づくりのために「さあ、みんなで、考えよう」～

柘植小・中学校で大切にされてきたことばに「つげっこ」という言葉があります。柘植に住む子どもは自分の家の子だけでなく、地域に住むすべての子どもが自分の子どもであり、みんなで見守り、ともに成長していこうというすてきな考えです。この考えを、子どもから年配の方まで、すべての柘植に住むひとに広げて、みんなが安心して暮らせる、誇りを持って暮らせる柘植づくりをめざして、本年度もこの通信を発行していきます。家族やなかまといっしょに「さあ、みんなで、考えよう！」

本年4月で沖縄戦開始から75年

第二次世界大戦末期の１９４５年３月２３日からアメリカ軍は沖縄本島への本格的な空襲を開始し、３月２６日に沖縄本島への上陸に先立ち沖縄本島の西方にある慶良間諸島へ上陸したのち、４月１日朝、沖縄本島中西部に上陸しました。沖縄戦では、アメリカ軍約１万２千５百人を含む２０万人強（そのなかで沖縄県出身者１２万２千人強、うち民間人は９万４千人）の犠牲者を出したといわれています。民間人犠牲者は実に沖縄県民の４人に１人という数になりました。６月２３日に沖縄守備軍最高指揮官と参謀長が摩文仁の軍司令部で自決し、沖縄守備軍の指揮系統が完全に消滅し、沖縄戦の組織的戦闘が終結しました。現在、６月２３日は「慰霊の日」として沖縄県が制定している記念日で、沖縄県および沖縄県内の市町村の機関の休日になっています。

７５年前の今日（４月１日）、アメリカ軍が沖縄本島に上陸しました。沖縄は３ヶ月にわたり、戦場となり、家族や親戚、友だちなどたくさんの大切な人たちの尊い命を奪っていきました。

このような歴史がある沖縄で、大切にされている言葉に「命どぅ宝」（＝命こそ宝）、「いちゃりばちょーでー」（漢字では行逢りば兄弟＝一度出会ったら、みんなきょうだい）があります。沖縄戦の傷の上に沖縄の人々が築いてきた人間愛や優しさ、思いやりの心が感じられる素敵な言葉だと思います。

東京オリンピックと喜納昌吉さんと歌「花」

歌「花～すべての人の心に花を～」をつくった、音楽家（歌手、作詞家、作曲家）であり平和運動家である喜納昌吉さんは終戦後の１９４８年に沖縄で生まれました。１９６４年の東京オリンピックのときには喜納昌吉さんは高校生になっていました。当時の沖縄は１９７２年の沖縄返還の８年前であり、アメリカ統治下にありました。喜納さんが学校帰りに立ち寄った定食屋のテレビには「東京オリンピック」の閉会式がうつしだされていました。１９６４年の東京オリンピック閉会式では、それまでとは違い、選手たちは各国入り乱れ、肩を組み、踊りを踊り、笑うものあり、泣くものあり、そして互いに祝福しあいながら入場行進を行いました。国境や人種といった人類の垣根を越えた「平和の祭典」の姿がそこにありました。アナウンサーがこの様子を「泣いています・・・笑っています」という言葉で実況していました。テレビ中継でこの模様を見た喜納さんは涙がこみ上げる感動を覚えたそうです。

戦争という悲しく痛ましい出来事をくぐってきた沖縄は、高校時代には依然アメリカの統治下にありました。このような状況のなかで見た閉会式での国境や人種をこえたつながりを根底に持ち、のちに喜納さんは一曲の歌を書きました。それが「花～すべての人の心に花を～」でした。

この歌はのちに日本国内だけでなく、台湾、タイ、ベトナム、アルゼンチンをはじめ世界６０か国以上で、多数のアーティストにカバーされ、全世界で３０００万枚を売り上げたといいます。そして、２００６年には、文化庁により日本の歌百選に選定されました。この「花」は、かつて黒人差別がきびしかったアメリカのアトランタで開催されたアトランタオリンピックでも、喜納さんにより現地で歌われました。

伊賀市は全国３例目となる「パートナーシップ宣誓制度」を実施しています。伊賀市独自の「パートナーシップ宣誓書」に署名し、提出した市内の同性カップルに「受領証」が交付されます。この制度の開始は東京都渋谷区と世田谷区が最初でした。渋谷区では条例を定めて「証明書」を発行しています。東京都の渋谷区と世田谷区で「パートナーシップ宣誓制度」が実施された要因の１つに今回の東京オリンピック開催があると言われています。人権の視点でも世界レベルを意識して変わっていく日本の様子がうかがえます。オリンピックという機会に、すべての人のこと、あらゆる人権のことを大切にする思いが広がることを「さあ、みんなで、考えよう」

文責・橋本浩信

花　～すべての人の心に花を～

作詞・作曲　喜納　昌吉

川は　流れて　どこどこ行くの　人も　ながれて　どこどこ行くの
そんな流れがつくころには　花として　花として　咲かせてあげたい
泣きなさい　笑いなさい
いつの日か　いつの日か　花を　咲かそうよ
涙　ながれて　どこどこ行くの　愛も　ながれて　どこどこ行くの
そんな流れを　この胸に　花として　花として　むかえてあげたい
泣きなさい　笑いなさい
いつの日か　いつの日か　花を　咲かそうよ
花は　花として　笑いもできる　人は　人として　涙も流す
それが自然の歌なのさ　心のなかに　心のなかに　花を咲かそうよ
泣きなさい　笑いなさい
いついつまでも　いついつまでも　花をつかもうよ
泣きなさい　笑いなさい
いつの日か　いつの日か　花を咲かそうよ